

「SSH 海外研修

第9回ハワイ島巡検四校研究成果発表会」

実施日時 2月21日(土) 13:30~18:00
実施場所 早稲田大学高等学院地学室

参加人数

川越高校

15名(1年7名、2年8名) 引率2名
早稲田大学高等学院 5名 教諭 2名
茨城県立並木中等教育学校 11名 引率1名
茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 8名 引率3名

計 生徒 39名 教諭 8名
引率 阿部宏、池田英人

目的

研究能力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力育成

- ・ハワイ島実習における研究成果を発表し、プレゼンテーション能力を育成する。
- ・他校ハワイ島研修校の研究発表での質疑応答により議論する力を育成する。
- ・他校との合同研究発表会を通じ、今後の課題研究内容の選択、共同研究につなげる。

実施の状況及び概要

日程

13:00 会場集合
13:25 開会式
13:30 各校巡検 日程・内容紹介
13:50 発表1 植物部門 4作品
14:40 発表2 天文・環境部門 4作品
15:45 発表3 物理・地学部門 5作品
17:00 閉会式、講評。記念撮影
17:25 交流会
18:00 解散

川越高校発表内容

- 1 ハワイ島総括
- 2 オヒアレファの形状変化
- 3 星の分光
- 4 ハワイ島マウナケア山の標高による重力加速度変化



早稲田大学高等学院発表内容

- 1 ハワイ諸島巡検
- 2 ハワイ島マウナケア山頂が天体観測に最適な場所である理由
- 3 ハワイにおける土地利用
- 4 ハワイ島火山ハザードマップの研究
- 5 ハワイの海岸の津波対策について

茨城県立並木中等教育学校

- 1 オヒアレファの環境による形態の変化Ⅲ
- 2 ハワイ島のパイオニア植物の高度と地質による種類の違い
- 3 高度環境における人体への影響
- 4 ハワイの高所環境における紫外線の測定

茨城県立竜ヶ崎第一高校

- 1 微生物を使えば、透明なマンゴージュースが作れるか?
- 2 日本とハワイの重力加速度の比較



まとめ

ハワイ島巡検合同発表会は9年目になる。昨年からは並木中等教育学校、今年からは竜ヶ崎第一高校の研究発表が加わり四校合同の研究発表会になった。

発表会の特徴として、
・ハワイ島という共通なフィールドでのフィールドワークで得たデータに基づく研究発表であること。
・参加生徒全員が口頭発表を行うこと
・発表会の企画・運営は生徒主体であることがあげられる。

今年の特徴は川越高校と並木中等教育学校がオヒアレファ共同研究に着手したことである。毎年感じるのは、各校共通のテーマとそれぞれ異なるテーマがあり、同じテーマの場合お互いの情報交換でテーマが深められ、異なるテーマの場合、研究の幅が広がる効果があるということである。一校のみで閉じているとそのようなことは難しい。交流会を行ってこそその効果がある。また、巡検場所が同じで土地や文化に関する共通認識があるため、突っ込んだ議論をし易いこと、発表校数が4校なので発表時間、質疑の時間を十分に確保できることも利点である。昨年に引き続き、終了後生徒達は交流会を行い、さらに情報交換を行った。



近年海外での海外校との交流・研究発表に重きがおかれている風潮があるが、海外でなければできないフィールドワークとそれに基づく研究、発表と交流、共同研究という流れは、一過性で終わらない科学研究の本質であり、このような海外研修こそ極めて重視すべき事業であるとする。

今年も早稲田大学高等学院加藤先生が会場を手配してくださり実施された。今後もぜひ続けていきたい事業である。

(阿部 宏)